1　道徳教育の基礎・基本

（１）学校段階に応じた道徳教育

道徳教育はすべての学校段階において一貫して取り組むべきものであり，幼稚園，小・中・高等学校の学校段階や小学校の低・中・高学年の各学年段階ごとにその重点を明確にし，より効果的な指導が行われるようにすることが必要です。

幼稚園
規範意識の芽生えを培う。

→

小学校
生きる上で基盤となる道徳的価値観の形成を図る指導を徹底するとともに自己の生き方についての指導を充実する。

↓

中学校
思春期の特質を考慮し，社会とのかかわりを踏まえ，人間としての生き方を見つめさせる指導を充実する。

←

高等学校
社会の一員としての自己の生き方を探求するなど人間としての在り方生き方についての自覚を一層深める指導を充実する。

ア　道徳教育のねらい

学校における道徳教育は，児童生徒がよりよく生きるための基盤となる**道徳性を養う**ことを目標としており，児童生徒一人一人が将来に対する夢や希望，自らの人生や未来を拓いていく力を育む源となるものでなければならい。

道徳教育を通じて育成される道徳性は，「豊かな心」はもちろん，「確かな学力」や「健やかな体」の基盤ともなり，児童生徒の「生きる力」を根本で支えるものです。

イ　道徳教育の進め方

小・中学校…道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり，道徳科はもとより，各教科，（外国語活動　※小学校のみ），総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて，児童生徒の発達の段階を考慮して，適切な指導を行わなければならない。

高等学校…公民科やホームルーム活動を中心に各教科・科目等の特質に応じ学校の教育活動全体を通じて，生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探究し豊かな自己形成ができるよう，適切な指導を行う。

高等学校の道徳教育は，小・中学校と異なり道徳科が設けられていないので，小・中学校における道徳教育を踏まえつつ，教育活動全体を通じて指導するための配慮が必要です。

（２）道徳教育の要としての道徳科

ア　道徳科の目標

道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え（※中学校では，下線部が“物事を広い視野から”となる），自己の生き方についての考えを深める学習を通して，（※中学校では，下線部が“人間としての生き方”となる）道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。

イ　道徳科の特質

児童生徒一人一人が，ねらいに含まれる一定の道徳的価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え，自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して，内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間である。　※（　）は中学校

ウ　道徳科の学習

道徳科では，目標に，道徳性を養うための学習活動がより具体化して示されました。特に，学習活動として示された，次の四つの事柄を押さえておく必要があります。

○　道徳的諸価値について理解する

道徳的価値とは，よりよく生きるために必要とされるものであり，人間としての在り方や生き方の礎となるものである。道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気付き，価値理解と同時に人間理解や他者理解を深めていくようにする。

価値理解…内容項目を，人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解する。
人間理解…道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解する。
他者理解…道徳的価値を実現したり，実現できなかったりする場合の感じ方，考え方は一つではない，多様であるということを前提として理解する。

○　自己を見つめる

様々な道徳的価値について，自分との関わり，つまりこれまでの自分の経験やそのときの考え方，感じ方と照らし合わせながら，更に考えを深めていくようにする。

○　物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える

児童生徒が多様な考え方や感じ方に接することが大切であり，多様な価値観の存在を前提にして，他者と対話したり協働したりしながら，物事を多面的・多角的に考えられるようにする。

○　自己（人間として）の生き方について考えを深める

児童生徒は，道徳的価値の理解を基に自己を見つめるなどの道徳的価値の自覚を深める過程で，同時に自己の生き方についての考えを深めているが，特にそのことを強く意識させることが重要である。

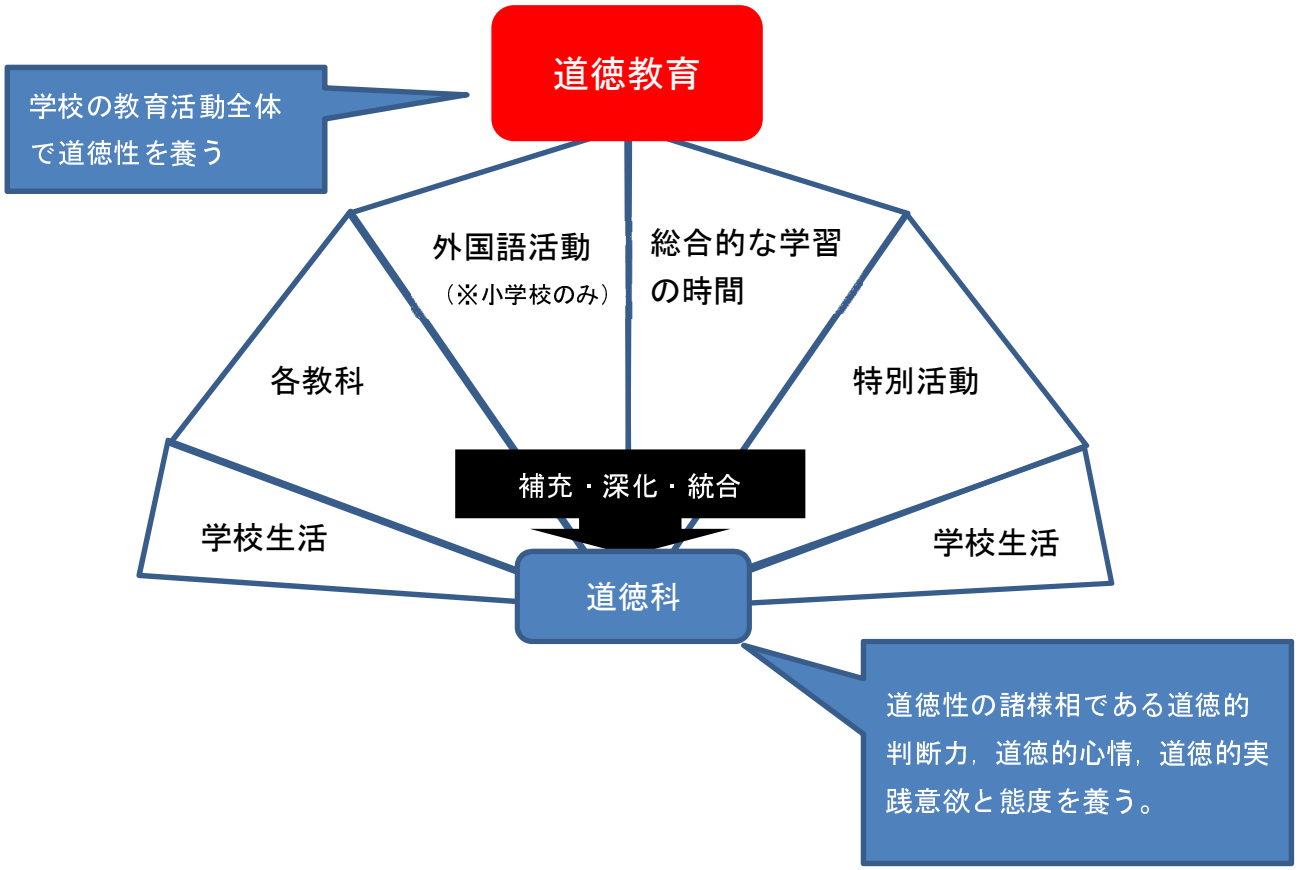
ここがポイント！

○　道徳科は，児童生徒がねらいとする道徳的価値を自己との関わりにおいて捉えることができるように指導方法の工夫に努めましょう。

○　道徳科の学習を効果的に行うためには，学級内での信頼関係の構築が基盤となります。教員と児童生徒の信頼関係や児童生徒相互の人間関係を育て，一人一人が自分の考え方や感じ方を伸び伸びと表現することができる雰囲気を日常の学級経営の中でつくるようにすることが大切です。

（３）道徳教育と道徳科の関係

道徳教育は，学校の教育活動全体を通じて，道徳性を養うことを目標としています。道徳科は，道徳教育でとらえた道徳的諸価値を補充，深化，統合する計画的・発展的な学習により，道徳性の諸様相である，道徳的判断力，道徳的心情，道徳的実践意欲と態度を育成する要となる時間として位置付くものです。



各教科等は，それぞれに固有の目標をもっていますので，それらの指導の中で行う道徳教育としては，取り扱う機会が十分でない道徳的価値に関わる指導を補うこと（**補充**）や，児童生徒や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること（**深化**），相互の関連を捉え直したり発展させたりする（**統合**）道徳科がどうしても必要になってくるのです。

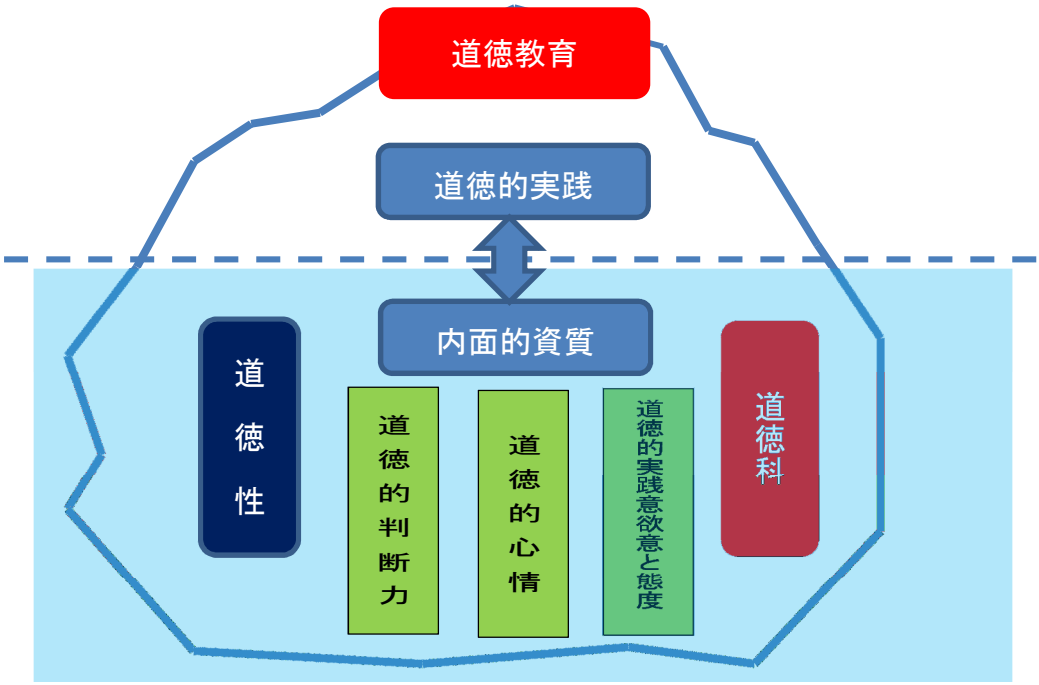
ここがポイント！

○　道徳科は，扇の「要」のように，各教育活動における道徳教育の要所を押さえて中心で留めるような役割をもっています。

○　道徳性をはぐくむために，道徳科はもとより，各教科，外国語活動（小学校のみ），総合的な学習の時間及び特別活動においてもそれぞれの特質に応じて適切な指導を行いましょう。

（４）道徳性

道徳性は，人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり，道徳的判断力，道徳的心情，道徳的実践意欲と態度を諸様相とします。これらの諸様相は，序列や段階があるということではなく，日常生活や今後出会うであろう様々な場面，状況で，道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し，実践することができる内面的資質のことです。



道徳科の指導は，児童生徒の行為の変容を直接的にねらいとするものではありません。教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話合などに終始することのないように留意しましょう。

道徳性は，徐々に，しかも着実に養われることによって，潜在的，持続的な作用を行為や人格に及ぼすものであるだけに，長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導がなされ，道徳的実践につなげていくことができるようにすることが求められます。

ここがポイント！

○ **道徳的判断力**

人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し，様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。

○ **道徳的心情**

道徳的価値の大切さを感じ取り，善を行うことを喜び，悪を憎む感情のこと。

○ **道徳的実践意欲と態度**

道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性。

・**道徳的実践意欲**は，道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き。

・**道徳的態度**は，道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた道徳的行為への身構え。

（５）道徳教育の内容

ア　四つの視点

道徳教育の内容については，小・中学校の各学年・学校段階において四つの視点に分けた内容項目として示されています。この四つの視点は，相互に深い関連をもっており，各学年・学校段階において，関連を考慮しながら，四つの視点に含まれるすべての内容項目について，学校の教育活動全体を通じて適切に指導していくことが大切です。

Aの視点

主として自分自身に関すること
- ○善悪の判断，自律，自由と責任
- ○節度，節制　　○個性の伸長
- ○真理の探究　など

Bの視点

主として人との関わりに関すること
- ○親切，思いやり　　○感謝
- ○礼儀　　○友情，信頼
- ○相互理解，寛容

Cの視点

主として集団や社会との関わりに関すること
- ○規則の尊重　　○公正，公平，社会正義
- ○勤労，公共の精神　　○家族愛
- ○国際理解，国際親善　　など

Dの視点

主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること
- ○生命の尊さ　　○自然愛護
- ○感動，畏敬の念
- ○よりよく生きる喜び

イ　指導内容の重点化

道徳教育を進めるに当たっては，児童生徒の発達の段階や特性等を踏まえるとともに，学校，地域等の実態や課題に応じて，学校全体及び各学年段階の指導内容ごとの重点化を図ることが大切です。

四つの視点の順序が児童生徒の対象の広がりに即して改善されました。また，それぞれの内容項目に手掛かりとなる「友情，信頼」「生命の尊さ」などの言葉がキーワードとして付記されました。社会的な要請や今日的課題を考慮し，次のような内容の指導について配慮が求められています。

小学校	全	・自立心や自律性　・生命を尊重する心　・他者を思いやる心
	低	・挨拶などの基本的な生活習慣を身に付ける　・善悪を判断し，してはならないことをしない ・社会生活上のきまりを守る
	中	・善悪を判断し，正しいと判断したことを行う　・身近な人々と協力し助け合う ・集団や社会のきまりを守る
	高	・相手の考え方や立場を理解して支え合う　・法やきまりの意義を理解して進んで守る ・集団生活の充実に努める ・伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重する
中学校		・自立心や自律性を高め，規律ある生活をする ・生命を尊重する心や自らの弱さを克服して気高く生きようとする心を育てる ・法やきまりの意義に関する理解を深める ・自らの将来の生き方を考え主体的に社会の形成に参画する意欲と態度を養う ・伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重する ・国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付ける

ここがポイント！

○　重点内容については，指導時数を増やしたり，他の教育活動との関連を図った道徳学習プログラムにしたりするなどの工夫をしましょう。

○　内容項目を児童生徒の立場から具体的に捉えるために「私たちの道徳」を活用しましょう。

（６）質の高い多様な指導方法

道徳教育の質的転換を図るためには，主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合いや読み物教材の登場人物の心情の読み取りに偏ることなく，学校や児童生徒の実態に応じて，道徳的価値に迫る読み物教材の活用や，道徳的価値に関する問題解決的な学習・体験的な学習など，質の高い多様な指導方法を展開することが必要です。

ア　多面的・多角的に考える

問題場面から考える学習の（例）

○　道徳的価値のことは理解しているが，それを実現しようとする自分とできない自分との葛藤から生じる問題（例）

いじめをせずに仲良くしたい
（「相互理解，寛容」「友情，信頼」等）

（例）
いじめ

・現実の場面では傍観してしまう
・相手にも非があると思ってしまう
・異なる考えや立場を受け入れられない

○　複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題（例）

寛大な心をもって他人の過ちを許す
（「相互理解，寛容」）

理解し合い，信頼や友情を育む
（「友情，信頼」）

葛藤や衝突

法やきまりへの放縦で自分勝手な反発を許さない（「規則の尊重」）

同調圧力に流されない
（「公正，公平，社会正義」）

「多面的」に考えることと，「多角的」に考えることの違いは？

一般的には，「多面的」とは，学習対象が様々な面をもっていることを，「多角的」とは，学習対象を様々な角度から考察し理解することを意味しています。実際の指導にあたっては「多面的」と「多角的」は必ずしも明確に分けられるものではないため，道徳科の学習指導要領及び解説においては，「多面的・多角的に考え」とひとくくりで説明されています。

ここがポイント！

○　「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに，自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して，道徳的価値を多面的・多角的に考えさせましょう。

○　他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく，多面的・多角的な思考を通じて，道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めさせましょう。

イ　多様な指導方法

文部科学省の専門家会議において，道徳科の質の高い多様な指導方法の例示として次頁に示すとおり，「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」が挙げられています。
それぞれの特長は以下のとおりです。

読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し，道徳的諸価値の理解を深めることについて効果的な指導方法であり，登場人物に自分を投影して，その判断や心情を考えることにより，道徳的価値の理解を深めることができる。

問題解決的な学習

児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。
問題場面について児童生徒自身の考えの根拠を問う発問や，問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問，問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問などによって，道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

道徳的行為に関する体験的な学習

役割演技などの体験的な学習を通して，実際の問題場面を実感を伴って理解することを通して，様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。
問題場面を実際に体験してみること，また，それに対して自分ならどういう行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して，道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

ここがポイント！

○　次頁に示した指導方法は例示に過ぎず，それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではありません。それぞれに様々な展開が考えられ，例えば読み物教材を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れるなど，それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられます。
○　重要なことは，指導する教員一人一人が，学習指導要領の改訂の趣旨をしっかりと把握し，学校の実態や児童生徒の実態を踏まえて，授業の主題やねらいに応じた適切な工夫改良を加えながら適切な指導方法を選択することが求められるということです。

道徳科における質の高い多様な指導方法（イメージ）

	読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習
ねらい	教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して，道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して，道徳的な問題を多面的・多角的に考え，児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して，道徳的価値の理解を深め，様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。
導入	**道徳的価値に関する内容の提示** 教員の話や発問を通して，本時に扱う道徳的価値へ方向付ける。	**問題の発見や道徳的価値の想起など** ・教材や日常生活から道徳的な問題をみつける。 ・自分たちのこれまでの道徳的価値の捉え方を想起し，道徳的価値の本当の意味や意義への問いを持つ（原理・根拠・適用への問い）。	**道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など** ・教材の中に含まれる道徳的諸価値に関わる葛藤場面を把握する。 ・日常生活で，大切さが分かっていてもなかなか実践できない道徳的行為を想起し，問題意識を持つ。
展開	**登場人物への自我関与** 教材を読んで，登場人物の判断や心情を類推することを通して，道徳的価値を自分との関わりで考える。 **【教員の主な発問例】** ・どうして主人公は，○○という行動を取ることができたのだろう（又はできなかったのだろう）。 ・主人公はどういう思いをもって△△という判断をしたのだろう。 ・自分だったら主人公のように考え，行動することができるだろうか。 **振り返り** 本時の授業を振り返り，道徳的価値を自分との関係で捉えたり，それらを交流して自分の考えを深めたりする。	**問題の探究（道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など）** ・道徳的な問題について，グループなどで話合い，なぜ問題となっているのか，問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのかなどについて多面的・多角的に考え議論を深める。 ・グループでの話合いなどを通して道徳的問題や道徳的価値について多面的・多角的に考え，議論を深める。 ・道徳的な問題場面に対する解決策を構想し，多面的・多角的に検討する。 **【教員の主な発問例】** ・ここでは，何が問題になっていますか。 ・何と何で迷っていますか。 ・なぜ，■■（道徳的諸価値）は大切なのでしょう。 ・どうすれば■■（道徳的諸価値）が実現できるのでしょう。 ・同じ場面に出会ったら自分ならどう行動するでしょう。 ・なぜ，自分はそのように行動するのでしょう。 ・よりよい解決方法にはどのようなものが考えられるでしょう。 **探究のまとめ** **（解決策の選択や決定・諸価値の理解の深化・課題発見）** ・問題を解決する上で大切にした道徳的価値について，なぜそれを大切にしたのかなどについて話合い等を通じて考えを深める。 ・問題場面に対する自分なりの解決策を選択・決定する中で，実現したい道徳的価値の意義や意味への理解を深める。 ・考えた解決策を身近な問題に適用し，自分の考えを再考する。 ・問題の探究を振り返って，新たな問いや自分の課題を導き出す。	**道徳的な問題場面の把握や考察など** ・道徳的行為を実践するには勇気がいることなど，道徳的価値を実践に移すためにどんな心構えや態度が必要かを考える。 ・価値が実現できない状況が含まれた教材で，何が問題になっているかを考える。 **問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施など** ・ペアやグループをつくり，実際の問題場面を役割演技で再現し，登場人物の葛藤などを理解する。 ・実際に問題場面を設定し，道徳的行為を体験し，その行為をすることの難しさなどを理解する。 **道徳的価値の意味の考察など** ・役割演技や道徳的行為を体験したり，それらの様子を見たりしたことをもとに，多面的・多角的な視点から問題場面や取り得る行動について考え，道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。 ・同様の新たな場面を提示して，取りうる行動を再現し，道徳的価値や実現するために大切なことを体感することを通して実生活における問題の解決に見通しを持たせる。
終末	**まとめ** ・教員による説話。 ・本時を振り返り，本時で学習したことを今度どのように生かすことができるかを考える。 ・道徳的諸価値に関する根本的な問いに対し，自分なりの考えをまとめる。 ・感想を聞き合ったり，ワークシートへ記入したりして，学習で気付いたこと，学んだことを振り返る。		

ウ　道徳科における「主体的な学び」

道徳科における「主体的な学び」とは，教材に込められた道徳的価値を観念的・一面的に理解させるのではなく，児童生徒がねらいとする道徳的価値について課題意識をもち，自分の生活を見つめながら他者と議論することで，道徳的価値の理解を深め，自己の生き方について考えを深める学習です。さらに，理解した道徳的価値から自分の生活を振り返り自らの成長を実感したり，これからの課題や目標を見付け，その結果を日常生活の行動や習慣に結びつけたりしていくことです。

＜「主体的な学び」を目指した学習指導過程例＞

導入	主題に対する児童生徒の興味や関心を高め，ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階	**導入の工夫** ○見通しを持って主体的に考え，学ぶことができるようにする。 ・主題に対する児童生徒の興味や関心を高め，問題意識を持たせるように工夫する。
展開	ねらいを達成するための中心となる段階であり，中心的な教材によって，児童生徒一人一人がねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階	**展開の工夫** ○他者の考えと比べ自分の考えを深める展開となるようにする。 ○教材や生活体験などを生かしながら，一定の道徳的価値に関わる物事を多面的・多角的に捉えることができるようにする。 ・発問を工夫する。（例：児童生徒の考えの根拠を問う発問や問題場面を自分に当てはめて考えてみることを促す発問など） ・一人一人が意欲的で主体的に取り組むことができる表現活動や話合い活動を仕組む。
終末	ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり，道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして，今後の発展につなぐ段階	**終末の工夫** ○主題を自分との関わりで捉え自己を見つめ直し，発展させていくことへの希望がもてるようにする。 ・学んだ道徳的価値に照らして，自らの生活や考えを見つめるための具体的な振り返り活動を工夫する。 ・必要に応じて，授業開始時と終了時における考えがどのように変容したのかが分かるような活動を工夫する。

「ねらい」「内容」「方法」の一体化が重要です。
次のポイントを踏まえた指導を行いましょう。

ここがポイント！

○　まず，ねらいとする道徳的価値についての児童生徒のこれまでの学習状況や実態をしっかりと把握し，それを基に，学習指導要領を踏まえ，この時間にどういった学習活動を通して，何をねらうのかを明確化・具体化します。

○　次に，教材に対する児童生徒の感じ方や考え方を分析し，児童生徒がどのような問題意識をもって学習に臨み，ねらいとする道徳的価値を理解し，自己を見つめ，多様な感じ方や考え方によって学び合うことができるのかを具体的に予想しながら，それらが効果的になされるための発問や授業全体の展開など，学習指導過程を考えます。

○　その際には，児童生徒が道徳的な問題を自分事として捉え，議論し，探究する過程を重視し，道徳的価値に関わる自分の考え方，感じ方をより深めるようにするために，児童生徒の実態やねらいに応じた適切な指導方法を工夫する必要があります。

（７）道徳科における評価

評価の基本的な考え方は，児童生徒の側から見れば，自らの成長を実感し，意欲の向上につなげていくものであり，教員の側から見れば，教員が目標や計画，指導方法の改善・充実に取り組むための資料です。

道徳科においては，児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し，指導に生かすよう努める必要があります。ただし，数値などによる評価は行わないものとします。

ア　道徳科の評価に当たって

・数値による評価ではなく，記述式とすること
・個々の内容項目ごとではなく，大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること
・他の児童生徒との比較による評価ではなく，児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め，励ます個人内評価として行うこと
・学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか，道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
・道徳科の学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ること

道徳科の評価は，一つ一つの内容項目ごとに，その内容項目についてどのくらい理解したかということを評価するものではありません。道徳的価値について多面的・多角的に考えることができるようになったか，道徳的価値を自分自身との関わりで深めようとしていたかといったことを，学期や学年など一定のまとまりの中で，道徳科の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り評価するということを示したものです。

なお，一定のまとまりの中で評価した結果として，特に顕著と認められる点が発揮された内容項目に係る授業について，評価の中で触れるということは考えられます。

イ　道徳科の評価の方向性

○　指導要録においては当面，一人一人の児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について，発言や会話，作文・感想文やノートなどを通じて，次のような点に注目して見取り，特に顕著と認められる具体的な状況を記述する，といった改善を図ることが妥当。
　・　他者の考え方や議論に触れ，自律的に思考する中で，一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
　・　多面的・多角的な思考の中で，道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
○　評価に当たっては，児童生徒が一年間書きためた感想文をファイルしたり，１回１回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識して変容を見取るのは難しいため，年間 35 時間の授業という長い期間で見取ったりするなどの工夫が必要。

道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子の把握は，「各教科の評定」や「出欠の記録」等とは基本的な性格が異なるものであることから，調査書に記載せず，入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要があります。

ここがポイント！

○　道徳性の評価の基盤には，教員と児童生徒との人格的な触れ合いによる共感的な理解が存在することが重要です。
○　児童生徒の成長を見守り，努力を認めたり，励ましたりすることによって，児童生徒が自らの成長を実感し，更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価を目指すことが求められます。
○　道徳性は，極めて多様な児童生徒の人格全体に関わるものであることから，個人内の成長の過程を重視すべきです。